

2016年9月17日

今日9月17日は誕生日だ。またひとつ歳を重ねただけで、別に嬉しくもない。でも、これまで生きてきたこと、これからどう生きるかを考えると感慨深いものがある。

昨年の今ごろは、国会で戦争法案が強行採決され、腹立たしさと落ち着かない毎日であった。それから1年。戦争法は施行され、参院選で改憲勢力が3分の2を占めることになり、戦後政治はまさに岐路に立っている。

日本国憲法施行の1年後に生まれ、戦後の「物資不足」のなか大病を繰り返しながら生きながらえた。戦後復興、そして高度成長の時代に、幼少から青春時代を過ごした。「戦後ベビーブーム世代」の真ん中に位置する。名古屋で生まれ、岐阜県高山・郡上の中学・高校時代、松本・大阪での大学・大学院時代、そして再び名古屋での教員時代、退職後の現在へと時は流れる。

こんな「自分史」なるものをレポートにも書きつつある。これも歳のせいだろうか。この誕生日で68になる。だんだん70の「大台」に近づいている。なんだか20年前のことを思い出す。

俳優の渥美清さんが20年前の1996年8月4日に68で亡くなった。同僚で研究室隣の森正さんが知らせてくれた。渥美さん、「寅さん」の大ファンだったので、とにかくショックだった。写真は8月に刊行された『渥美清 没後20年 寅さんの向こうに』。



初めて見る渥美さんの写真もあり、繰り返し何度も

見ている。山田洋次監督「寅さんと渥美清と」、「マドンナたちの寅さん」など、じつに見ごたえ、読みごたえがある。

「寅さん」第1作は1969年なので、松本の映画館で観たと思う。先日レポートした「人文闘争」ヤマ場の頃だ。その後48作まで映画館通いが続いた。映画館だけでなく、テレビの再放送なども観てきた。「寅さん」を通じて、わが青春から現在までを重ね合わせて考えることができる。

20年前というと、名古屋市大人文社会学部が発足した年だ。学部創設に深く関わったので、いまでも記憶に残る。渥美さんが亡くなったのを聞いたのは、名古屋市立女子短大の研究室であった。短大最終年度と新学部の講義があり、「二重の研究室」暮らしだった。

名古屋市立女子短大の頃についても、これからレポートしていきたい。

(2016年9月17日)